

# St Paul's School（高等部）訪問

文京学院大学女子中学校高等学校 教頭 石井 淳

## 1 はじめに

私立学校教員海外研修団は、2024年9月4日、視察先である St Paul's School を訪問した。本レポートでは、ICT を用いた学習プログラムにおいてオーストラリア国内でも評価が高い同校の教育環境や取り組み等、とくに高等部での視察で得た知見について報告する。

## 2 学校（施設）概要

### (1) 学校概要

St Paul's School はクイーンズランド州ブリスベンの中心部から車で約 30 分の北郊にある Bald Hills という閑静な住宅地域に位置する、1960 年に創立された幼稚園から高等部までの一貫教育を提供する英国国教会系の共学の私立学校である。50 ha 以上の広大なキャンパス内に以下の 4 つを有している。

- ① インターナショナル・スクール：留学生向けに英語能力開発プログラムを提供
- ② ジュニア・スクール：準備学級～6 年生
- ③ ミドル・スクール：7～9 年生
- ④ シニア・スクール：10～12 年生

グローバル社会に対応するための視点の育成を教育目標としている同校では、ヨーロッパ、アジア、南アメリカ等から幅広く留学生を受け入れており、その割合は全校生徒 1,600 名のうち約 8% となっている。

また、2 年連続で「The Educator 誌」における「オーストラリアで最も革新的な学校トップ 40 校の 1 つ」に選出されており、2017 年にはケンブリッジ大学の「innovation800」シリーズで「世界で最も革新的な学習組織トップ 100」にも選ばれた。2023 年には学習環境設計における革新性が認められ、オーストラリアの年間最優秀中等学校（非政府）および学習環境デザインにおける「イノベーション賞」も受賞。



広大な敷地（公式 HP より）



Administration 入口にて

## (2) 施設概要

教室には最先端の IT インフラが整備されている。また、インタラクティブホワイトボードも設置されており、デジタル化された学習環境が特徴である。生徒自身のノート PC やタブレットをストレスなく使用できる環境が整っているため、すべての授業において課題の提出は Student ポータルを使用。このポータルに PDF 化された教科書が格納されており、教員もポータルを利用して課題の指示や管理、保護者とのやり取りを確認することができる。

## (3) Innovation Precinct

Innovation Precinct は、すべての生徒に最適な学習環境を提供し、それぞれのカリキュラム領域をサポートするために建てられた新しい施設。双方向デジタルメディアを備えた「エントランス・ギャラリー」、フルレングスのワイドスクリーンを備えた美しい「ショーケース・シアター」、くぼんだコネクト・ラウンジを含む「セカンダリー・ライブラリー・スペース」、「クリエイティブ・スタジオ」、「チューリング・ラボ」のロボット工学エリア、「シニアスタディ・センター」、「シンキング・スタジオ」、実践的な学習のための「ポッシビリティ・ハブ」等 34 以上のアクティブ・ラーニングスペースを有している。



セカンダリー・ライブラリー・スペース



シンキング・スタジオ

## 3 教育環境

St Paul's School では、生徒が現代社会において求められるデジタルリテラシーやプログラミングスキルを習得できるよう、以下のようなアプローチを実践している。

### (1) BYOD (Bring Your Own Device) ポリシー

高等部の全生徒は、一人 1 台ずつ学校提供の個人用デジタルデバイス（主に iPad やノート PC）を利用して授業や課題に取り組んでいる。これにより生徒はリアルタイムで情報を取得し、デジタルツールによる課題の作成やコラボレーションを行うことが可能である。また、シチズンシップ（デジタル社会に

における倫理やルール)の教育も重視され、インターネットリテラシーやデジタルセキュリティについても習得する。授業はクラウドベースの学習管理システム(LMS)を活用しており、授業資料の共有やオンラインでの提出がスムーズに行える仕組みになっている。また、教師もこれらを利用することで双方向的な授業を行い、生徒の進捗を的確に把握した個別指導を日常的に行っている。

## (2) STEM教育の統制

同校では、ICT教育をSTEM(科学、技術、工学、数学)教育と密接に統合し、生徒が実用的な学びを得られる環境を整えている。この統合的アプローチにより、現代の技術分野で必要とされる複雑な問題解決スキルと専門知識を身につけることができる。また、生徒がハードウェアとソフトウェアの連携を実際に体験できるカリキュラムを用意し、理論だけでなく実践的な応用力強化を目指している。

## (3) プログラミングとデータサイエンスのカリキュラム

高等部の生徒は、必修科目としてプログラミングやデータサイエンスの基礎を学ぶ。これらの授業は、生徒にデジタルリテラシーを高めることを目的としており、PythonやJava等のプログラミング言語を通じて論理的思考力や問題解決能力を養っている。また、データ分析の手法やAI(人工知能)に関する基礎的な知識も授業に組み込まれており、将来のキャリアに役立つスキルを提供している。

## 4 St Paul's Schoolのトピックス(David先生からのレクチャー)

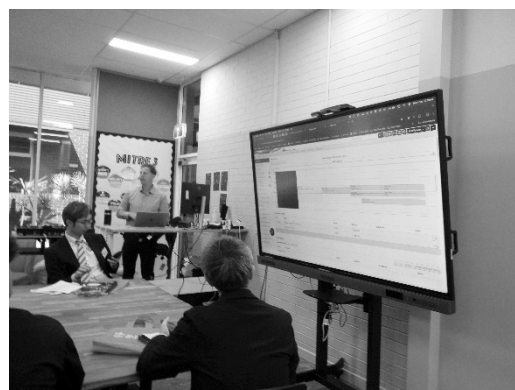
当校のITセクションを統括しているDavid先生よりSt Paul's SchoolにおけるICTの実践についてお話を伺った。

### (1) Student Management System

生徒全員、保護者、教員が共通のポータルサイトにアクセスし、授業・出席状況・成績・連絡等を共有している。教員同士はOutlookのカレンダーを使い情報を共有、生徒も毎日このポータルサイトを確認することが義務づけられているため、教員の一元管理が容易になっている。以前は保護者と教員間、教員同士のやり取りはe-mailが主流であったためにオーバーフロー気味であったが、現在ではMS Teamsに移行し改善を図っている。



David先生のレクチャー



Student Management System

## (2) 9月1日より導入の「働き方改革」

上記 Student Management System により教員は 24 時間アクセス可能となるため、休みなく対応に追われる懸念がある。その懸念を払拭するために、勤務時間外（16 時以降）は対応および回答の義務はないとの取り決めが 2024 年 9 月 1 日より施行された。現実には 16 時以降は一切対応しないということは難しいのだが、思い切ったガイドラインの導入は、日本の学校が抱える同様の問題へのヒントになるかもしれない。

## (3) AI 教育の導入と活動

2023 年から AI 教育が本格的に導入され、特に高校生向けに AI 技術を学ぶ機会が増えている。このプログラムは、Python を基盤としたプログラミング教育を中心に AI の基礎理論から応用技術までをカバーしている。生徒たちは AI を活用したデータ分析や、簡単な機械学習モデルを構築するなど、実践的な AI 概念の理解に取り組んでいる。

## 5 おわりに

St Paul's School での教育視察により、ICT 教育が同校のカリキュラムの中心であることをあらためて実感した（実際に見学した 11 年生の英語授業でも個人デバイスであるノート PC を活用したアクティブラーニングを実践していた）。広大な面積を有するオーストラリアにおいて、ICT の活用は必然の流れであったと推察するが、学校全体で温度差なく導入・実践している点に驚嘆し、生徒達も自主的かつ柔軟に ICT を活用しつつ個別学習を進めている点は特に印象的であった。さらに、教職員への ICT サポート体制が整備されていることから、生徒だけでなく教員の ICT リテラシーも高次であることは特筆すべき点であった。

結びに、この視察をアテンドしてくださった私学財団の関係各位をはじめ、ご尽力いただいた全ての方々に感謝の意を表したい。



Kathleen Power 先生と視察団



団長の武藤道郎校長先生と  
John O'Sullivan Williams 校長先生

参考：St Paul's School HP

<https://www.stpauls.qld.edu.au/international-school/japan-2/#hong-kong-view-in-english>